『英語英文学研究』第78号（第40巻第2号）2016 [pp. 51-72]

Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English 第9版の 'Express yourself' notesの分析と英語教育への活用

藤本　和子

1　*Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English* 第9版（以下 *OALD*9）がオックスフォード大学出版局から2015年に出版された。同辞典の編者であった英国人のＡＳ Hornbyは、1920年代から1942年まで日本に滞在し、大分高等商業学校などで教鞭を執った。彼は自らの英語教育からコミュニケーションに役立つ英語教授の必要性を感じ、そのことが、後に学習者のための辞典である *OALD* 出版につながり、世界中の英語教育に影響を与えていくこととなるのである。*OALD* 初版は、1948年に *Learner's Dictionary of Current English* として出版された。第2版は1963年、第3版は1974年、第4版は1989年、第5版は1995年、その後、第9版まで5年ごとに改訂されている。*OALD*9のManaging Editorの一人であるMargaret Deuterは、その前書きにおいて、'Hornby's principles continue to guide our work' (p. vi). のように、*OALD* は改訂を重ねても、なおHornbyの辞典編纂方針を受け継いでいると述べている。

*OALD*9の編纂は、モニターコーパスであるthe Oxford English Corpusの分析に基づいている。オックスフォード大学出版局のウェブサイトによると、2015年10月現在、このコーパスは、およそ25億語の21世紀の英語から成り、様々なタイプの英語、例えば、文学作品、学術論文、新聞、雑誌、国会議事録、ブロ

グ、メディアなどの英語データが収められており、さらに、英語が世界語であることから、イギリス英語、アメリカ英語のみならず、アイルランド、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、インド、南アフリカなどで使用される英語も収集されている。[1] *OALD*9は、185,000を超える語（句）、語義を掲載し（*OALD*8では、184,500であった）、新たに700の新語（句）や語義が加えられた。例えば、省略語の**AFAIK** ('(especially in TEXT MESSAGES, emails, etc.) as far as I know')、テクノロジーやインターネットの分野では、**flipped classroom** ('a method of teaching in which students study new material at home, for example with videos or over the Internet, and then discuss and practise it with teachers in class, instead of the usual method where teachers present new material in school and students practise at home') などがある。従来の語に新たな意味が加えられた例として、**achievement**は、*OALD*9で、第3義として 'a reward that you can earn in some video games by completing a challenge or level' という意味が加えられた。

*OALD*9が対象とする学習者レベルは、*Oxford 2016 ELT Catalogue* (pp. 60-62) によると、CEFR基準のB2からC2レベルである。TOEIC®スコアでは700点以上、英検準1級以上のレベルである。

*OALD*9の裏表紙には、'the **ultimate speaking and writing tool** for developing the skills you need for passing exams and communicating in English' とあるように、巻末には、**Oxford Speaking Tutor**と**Oxford Writing Tutor**を掲載し、学習者のスピーキング力、ライティング力の向上もねらいとしている。さらに、英語運用には語彙力や言語使用場面に応じた英語表現も重要であるため、新たなボックスノートとして、**Wordfinder** notesと**Express yourself** notesが設けられた。前者は、関連語に関する情報を与えるもので、例えば、**accident**の項目には、この語に関連する**ambulance**、**casualty**などの語のリストが見られる。後者の**Express yourself** notesは、'help you find the right words in everyday situations' (p. ix) とあるように、日常生活の中での場面に応じた適切な表現を提示している。

[1] Oxford Dictionaries. 2015. Oxford University Press. Available at http://www.oxforddictionaries.com/ (accessed 4 October 2015).

本稿では、*OALD*9で、英語でのコミュニケーションに役立つよう新たに設けられた**Express yourself** notesに焦点をあて、その内容を分析し、日常生活の様々な場面で、どのような言語表現が使用されているのかについて把握するとともに、『高等学校学習指導要領』の記述に照らしながら、高等学校、及び大学における英語教育において、**Express yourself** notesをどのように活用できるか、さらに、高等学校、大学の英語教育において、コミュニケーション能力養成のために、どのような点に留意して英語指導をするとよいかについて検討することを目的とする。

2 『高等学校学習指導要領』（第8節　外国語　第1款）には、外国語の目標が、以下のように記されている。

> 外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。（下線筆者）

外国語の目標の中にも見られる「コミュニケーション能力」とはいったいどのようなものであろうか。村野井　他 (2012: 19) は、主にBachman (1990)、Bachman and Palmer (1996)、Byram (1997) に基づき、外国語コミュニケーション能力が以下の5つから成り立つとの見解を述べている。

(1) 言語能力　(language competence)
(2) 方略能力　(strategic competence)
(3) 認知能力　(cognitive abilities)
(4) 世界のさまざまな事柄についての知識・考え　(real-world knowledge / thoughts)
(5) 態度・姿勢　(attitudes)

ここではそれぞれの能力について詳細に述べることはしないが、村野井　他 (2012: 21-22) には、(1) の「言語能力」に関係する「機能能力」、「言語機能」について、「言語機能は、言語の『働き』ということばで、『場面』とともに、学習指導要領に盛り込まれており、機能能力を育てることが求められている。」とある。『高等学校学習指導要領英訳版（仮訳）』には、「言語の使用場面の例」は、'Examples of Language-use Situations'、「言語の働きの例」は、'Examples of Functions of Language' とされている。「言語の使用場面の例」と「言語の働きの例」は、『中学校学習指導要領』と『高等学校学習指導要領』の両方に具体的な例が挙げられている（以下、『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説』、『高等学校学習指導要領解説』の記述については、「外国語」の中のものである）。『高等学校学習指導要領』（第3款　英語に関する各科目に共通する内容等１）の記述を見てみよう。

［言語の使用場面の例］

a 特有の表現がよく使われる場面：

・　買物　　・旅行　　・食事

・　電話での応答　　・手紙や電子メールのやりとり　など

b 生徒の身近な暮らしや社会での暮らしにかかわる場面：

・　家庭での生活　　・学校での学習や活動　　・地域での活動

・　職場での活動　など

c 多様な手段を通じて情報などを得る場面：

・　本，新聞，雑誌などを読むこと　　・テレビや映画などを観(み)ること

・　情報通信ネットワークを活用し情報を得ること　など

［言語の働きの例］

a コミュニケーションを円滑にする：

・　<u>相づちを打つ</u>　　・<u>聞き直す</u>　　・<u>繰り返す</u>

・　言い換える　　・話題を発展させる　　・話題を変える　など

b 気持ちを伝える：

・ 褒める　・ 謝る　・ 感謝する
・ 望む　・ 驚く　・ 心配する　など

c 情報を伝える：

・ 説明する　・ 報告する　・ 描写する
・ 理由を述べる　・ 要約する　・ 訂正する　など

d 考えや意図を伝える：

・ 申し出る　・ 賛成する　・ 反対する
・ 主張する　・ 推論する　・ 仮定する　など

e 相手の行動を促す：

・ 依頼する　・ 誘う　・ 許可する
・ 助言する　・ 命令する　・ 注意を引く　など

「言語の働きの例」については、『中学校学習指導要領』と『高等校学習指導要領』において、「a コミュニケーションを円滑にする」から、「e 相手の行動を促す」までの5つの項目名は全く同じであるが、aからeの中の具体的な例は、両学習指導要領において同一ではない。なお、下線を付したものは『中学校学習指導要領』にも取り上げられているものである。[2]

『中学校学習指導用要領解説』には、それぞれの言語の働きについての表現例が挙げられているが、『高等学校学習指導要領解説』には、表現例は挙げられていない。従って、*OALD*9の **Express yourself** notesの言語表現を分析することにより、英語を用いた日常の様々な場面の中でどのような表現が使用されているのかについて知ることは、高等学校における「言語の使用場面」や「言語の働き」における表現提示の1つの示唆になるのではないかと考える。さらに、『高等学校学習指導要領』（第3款　英語に関する各科目に共通する内容等2）には、「言語活動

[2]『高等学校学習指導要領』の「b 気持ちを伝える」の「感謝する」は、『中学校学習指導要領』の「礼を言う」に、「e 相手の行動を促す」の「誘う」は、『中学校学習指導要領』の「招待する」に関連すると考え、下線を付してある。参考までに『中学校学習指導要領』の「言語の使用場面の例」と「言語の働きの例」を Appendix A に記す。

を行うに当たっては…言語材料の中から，それぞれの科目の目標を達成するのにふさわしいものを適宜用いて行わせる。」とあり、言語材料の中の「ウ文法事項」として、以下の8つの文法項目が挙げられている。

(ア)　不定詞の用法
(イ)　関係代名詞の用法
(ウ)　関係副詞の用法
(エ)　助動詞の用法
(オ)　代名詞のうち，itが名詞用法の句及び節を指すもの
(カ)　動詞の時制など
(キ)　仮定法
(ク)　分詞構文

「言語の働きの例」の例えば、「b 気持ちを伝える」、「d 考えや意図を伝える」、「e 相手の行動を促す」などを見ても、これらの「言語の働き」には、話し手、書き手の心的態度を表すモダリティをはじめ、ポライトネスやためらいが関係してくるため、「言語材料」の文法事項中の「(エ)助動詞の用法」、「(カ)動詞の時制」などを、英語を使用したコミュニケーションの中で、ネイティヴスピーカーは巧みに使用していると考えられる。

『高等学校学習指導要領』（第3款　英語に関する各科目に共通する内容等1）には、英語の各科目の「言語活動を行うに当たっては…言語の使用場面や言語の働きの中から，各科目の目標を達成するのにふさわしいものを適宜取り上げ，有機的に組み合わせて活用する。」とあり、上で述べたように、『高等学校学習指導要領』（第3款　英語に関する各科目に共通する内容等2）において、言語活動を行う際の文法事項を含む「言語材料」が挙げられている。

本稿では、この『高等学校学習指導要領』の「言語活動」を行う際の、「言語の使用場面」、「言語の働き」そして「言語材料」としての文法事項提示の流れに沿って、「言語の働き」と*OALD*9の**Express yourself** notesを比較し、**Express yourself**

notesで例示されている言語表現から、『高等学校学習指導要領』の「言語材料」の文法事項を絞り、コミュニケーションに役立つ英語指導への示唆を得ることをねらいとする。

3　Express yourself notesは、第1章でも述べたように、日常生活の中での場面に応じた表現を例示している。本章では、まず、**Express yourself** notesの項目と『高等学校学習指導要領』の「言語の働き」を比較する。次に、**Express yourself** notesに例示されている言語表現からデータセットを作成し、使用語句の頻度を調査する。

『オックスフォード現代英英辞典　第9版』を出版した旺文社のサイトには、同辞典の対象は、一般、大学生、高校生とあり、高校生も対象に含まれている。[3] しかしながら、第1章でも述べたように、*OALD*9の対象学習者レベルは、CEFR基準のB2からC2レベル、TOEIC®スコアでは700点以上、英検準1級以上であり、高校生でこれらのレベルをもつ日本人英語学習者はまさに上級学習者と言ってよいだろう。従って、高等学校から大学での英語教育の流れの中で、**Express yourself** notesに出てくる言語表現を活用するという立場から考察することが必要であろう。

3.1　Express yourself notesは39項目ある。Table 1は、*OALD*9の**Express yourself** notesと『高等学校学習指導要領』の「言語の働きの例」の対照表である。この対照表は、**Express yourself** notesのタイトルと『高等学校学習指導要領』の「言語の働きの例」の日本語及び『高等学校学習指導要領英訳版（仮訳）』での対応する英語をもとに作成したものである。『高等学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領解説』には、「言語の働きの例」のそれぞれの言語表現例が提示されていないため、例文を手がかりに対応させることができない。従って、**Express yourself** notesと『高等学校学習指導要領』の「言語の働きの例」の両者

[3] Obunsha. 2015. Obunsha Co., Ltd. Available at http://www.obunsha.co.jp/ (accessed 5 October 2015).

が完全に一致するものではないことを断っておきたい。[4]

Table 1: *OALD*9 **Express yourself** notesと『高等学校学習指導要領』「言語の働きの例」

	*OALD*9 見出し語	**Express yourself** notes タイトル	『高等学校学習指導要領』 「言語の働きの例」
1	advice	Giving somebody advice	e 助言する
2	agree	Agreeing	d 賛成する 1
3	certain	Expressing certainty or uncertainty	d 推論する 1
4	complaint	Making a complaint	
5	concede	Conceding a point	d 賛成する 2 / d 反対する 1
6	congratulate	Congratulating somebody on an achievement or a family event	
7	correct	Correcting yourself	c 訂正する
8	describe	Describing a picture	
9	disagree	Disagreeing	d 反対する 2
10	end	Ending a conversation	
11	explain	Asking for clarification	a 聞き直す
12	finish	Wrapping up a discussion	
13	forbid	Forbidding sb to do sth	
14	have to	Asking about obligation	
15	help	Asking for help	e 依頼する 1
16	information	Asking for information	
17	interrupt	Interrupting	
18	introduce	Making introductions	
19	invite	Inviting somebody to something	e 誘う
20	know	Saying that you don't know something or giving yourself time to think	
21	likely	Expressing likelihood	d 推論する 2
22	message	Leaving a phone message	

[4]『高等学校学習指導要領解説』には、各科目の「2　内容」の中では、いくつかの言語表現例を示している。例えば、「コミュニケーション英語Ⅰ」では、「(1) 事実を伝える表現」として、It's stated/known/said (that). . . . など、「(2) 意見を伝える表現」として、I think/guess/believe/surmise/gather (that). . . . などが挙げられている。

23	offer	Offering somebody something	d 申し出る 1
24	open	Conversation openers	
25	permission	Asking for permission/a favour	e 依頼する 2
26	please	Asking for something	e 依頼する 3
27	prefer	Expressing a preference	
28	question	Dealing with questions	
29	recommendation	Asking for and making a recommendation	
30	shall	Offering to do something	d 申し出る 2
31	sorry	Apologizing	b 謝る
32	speculate	Speculating	d 推論する 3
33	suggest	Making suggestions	
34	sympathy	Expressing sympathy	
35	tell	Telling sb to do sth	e 命令する
36	thank	Thanking somebody for something	b 感謝する
37	think	Asking for somebody's opinion and involving others in a conversation	
38	warn	Warning people of danger	
39	why	Giving reasons, justifying a choice	c 理由を述べる

『高等学校学習指導要領』「言語の働きの例」に付されたアルファベットは、第2章で記した「言語の使用場面の例」のaからeを意味する。[5]

Table 1から、**Express yourself** notesの39項目と『高等学校学習指導要領』の「言語の働きの例」の30項目中13項目（「賛成する」、「推論する」、「反対する」、「依頼する」、「申し出る」の重複のため累計20）が互いに関連していることが分かる。

Table 2は、**Express yourself** notesにおいて設定された場面の説明と、それぞれの場面での言語使用の注意点について抜粋したものである。特定の記述が無い場合や**Express yourself** notesのタイトルから場面が明確な場合には、空欄にしてある。

[5] 参考までに、**Express yourself** noteのMaking a complaintは、『中学校学習指導要領』の「言語の働き」の「b 気持ちを伝える」に「苦情を言う」が挙げられている。

Table 2: *OALD*9 **Express yourself** notes で設定された場面と言語使用についての注記

	Express yourself notes タイトル	言語の使用場面説明	言語表現使用の注記
1	Giving somebody advice		There are a number of tactful ways of telling people what you think they should do . . .
2	Agreeing	In a discussion, . . .	. . . before you make a negative comment, you may want to say first that there are points that you agree with.
3	Expressing certainty or uncertainty		
4	Making a complaint	. . . when something you buy is of poor quality of [sic] the standard of service you receive is not good enough . . .	
5	Conceding a point		
6	Congratulating somebody on an achievement or a family event		
7	Correcting yourself	When you say something that was not quite what you intended, . . .	
8	Describing a picture	In some exams, you have to describe what you see in a picture or photograph.	
9	Disagreeing	In a discussion, . . .	. . . you may think that what other people say is wrong, but there are polite ways to convey this. It is common to express support for something that the other person says before expressing disagreement.
10	Ending a conversation		. . . there are polite ways to end a conversation . . .

11	Asking for clarification		
12	Wrapping up a discussion	In a formal meeting or conference, . . .	
13	Forbidding sb to do sth	When speaking to sb, . . .	. . . we usually use indirect language to ask them not to do sth . . .
14	Asking about obligation	When you are unsure about what is expected of you in a situation, . . .	
15	Asking for help		. . . people are more likely to react favourably if you ask politely . . .
16	Asking for information		. . . it sounds more polite if you can phrase your questions in an indirect way . . .
17	Interrupting	You may need to say something when somebody else is speaking, or you may be chairing a discussion where you have to stop one person talking too much.	If you start talking at the same time as someone else, this will seem rude. To interrupt politely, you can say . . .
18	Making introductions		There are different ways of introducing people to one another, depending on how formal the situation is . . .
19	Inviting somebody to something		
20	Saying that you don't know something or giving yourself time to think		
21	Expressing likelihood		
22	Leaving a phone message		

23	Offering somebody something	Particularly when you are the host, . . .	. . . you may want to make polite offers to your guests . . .
24	Conversation openers	. . . when you have to speak to someone for the first time or when you have to open a meeting . . .	
25	Asking for permission/a favour		You are more likely to get what you want if you can ask for it politely.
26	Asking for something	Whether you are in shops or restaurants or in somebody's home, . . .	. . . you can use polite questions to get what you want . . .
27	Expressing a preference		Note that we sometimes discount our own expertise or authority before expressing our preference . . .
28	Dealing with questions	If you give a talk, for example at a conference, . . .	
29	Asking for and making a recommendation		
30	Offering to do something		
31	Apologizing		. . . they [somebody] are less likely to be very angry if you can make a polite apology . . .
32	Speculating	In some exams, you have to talk about what you can see in a picture and speculate about the situation or a wider issue prompted by the picture.	
33	Making suggestions		
34	Expressing sympathy		
35	Telling sb to do sth		

36	Thanking somebody for something	When someone gives you something, or does something for you, . . .	. . . you often want to say more than just a brief ‘thank you’. . .
37	Asking for somebody's opinion and involving others in a conversation	In a meeting or a discussion you may need to find out what other people think. In some exams, you have to show that you can control the conversation by asking for contributions from the examiner.	
38	Warning people of danger		
39	Giving reasons, justifying a choice	In various exams, you are asked to make a choice and give reasons for it. In conversation or in a meeting, you need to explain and justify your decisions . . .	

Express yourself notesにおいて、設定された場面の説明を見ると、買い物、サービスを受ける、催し物の主催者として、初対面の人との会話、店・レストラン・他人の家にて、発話訂正、ディスカッション、試験、フォーマルなミーティングや会議、議長として、会議での発表など、日常生活における場面や、アカデミックあるいはフォーマルな状況といった、学習者や社会人が、日常経験する場面設定がなされている。興味深いことは、言語の使用場面における、言語使用に関する注記がなされている点である。例えば、‘tactful ways’、‘polite(ly)’、‘indirect language’、‘an indirect way’といったポライトネスやためらいに関するものや、‘formal’といったスピーチレベルの情報が記されている。さらに、次のような、相手を尊重する態度や円滑なコミュニケーションを図るための心得といったアドバイスもなされている。例えば、Agreeingの項目には、‘ . . . before you make a negative comment, you may want to say first that there are points that you agree with’や、Asking for permission/a favourの項目には、‘You are more likely to get what you want if you can ask for it politely’、さらにApologizingの項目には、‘ . . . they [somebody] are less likely to be very angry if you can make a polite apology . . . ’などの記述がみら

れる。これらのことから、英語を使用した日常のコミュニケーションの中で、場面によって、相手への配慮を表したり、控え目で、断定を避ける言語表現の使用の必要性が分かる。

3.2 Express yourself notesで例示された言語表現において、どのような語（句）が使用されているのか調べてみたい。**Express yourself** notesの例文から、小規模ではあるがデータセットを作成し、ソフトウェアAntConc [6] を用い、使用頻度の高い語を抽出してみよう。このデータセットには、**Express yourself** notesの例示する言語表現を用いた例文の全文が含まれている。Word Tokensは、3206、Word Typesは、673である。

Table 3は、AntConcのWord Listツールを用いて、使用頻度の高い順に、上位50の語を挙げてある。分析ツールの検索結果の表示をそのまま掲載しているため、いくつかの点について説明を加えておきたい。使用頻度が同じ場合には、アルファベット順に順位が示されている。第1位のiは、**Express yourself** notes中では、すべて大文字である。第7位のs、第10位のm、第22位のd、第40位のre、第44位ll、第45位veは動詞、助動詞の短縮形及び、sには、let's の省略されたusのsや例文中のアルファベットsも含まれる。第12位t、13位nは、否定の短縮形の一部、そして、tには、例文中のアルファベットtも含まれる。第42位のbreは、BrEの一部である。

第1位から第3位を見てみると、第1位は、i [I]（頻度207）、第2位は、you（頻度142）でありいずれも代名詞である。第3位のto（頻度116）は、to不定詞のtoと前置詞である。すべて3桁以上の頻度である。冠詞のthe とaも、それぞれ第4位と第6位であり、上位10位に入っている。注目したいのは、助動詞のランキングである。上位50位の中に、第14位would（頻度33）、第17位can（頻度31）、第24位could（頻度25）が含まれている。助動詞は、『高等学校学習指導要領解説』（英語に関する各科目に共通する内容等 2）の中で、言語材料の1つである文法

[6] Anthony, L. 2014. AntConc (Version 3.4.3) [Computer Software]. Tokyo, Japan: Waseda University. Available online at http://www.antlab.sci.waseda.ac.jp/

Table 3: *OALD*9 **Express yourself** notes で例示された言語表現中の語の頻度

Rank	Frequency	Word	Rank	Frequency	Word
1	207	i	26	25	not
2	142	you	27	25	sorry
3	116	to	28	25	there
4	92	the	29	24	on
5	68	that	30	24	this
6	64	a	31	24	your
7	63	s	32	21	what
8	52	we	33	20	like
9	50	it	34	18	name
10	43	m	35	17	in
11	42	do	36	17	my
12	38	t	37	17	please
13	35	n	38	17	very
14	33	would	39	16	here
15	32	for	40	16	re
16	32	if	41	16	right
17	31	can	42	15	bre
18	30	have	43	15	go
19	29	me	44	15	ll
20	27	think	45	15	ve
21	26	be	46	14	but
22	26	d	47	14	no
23	26	of	48	14	with
24	25	could	49	13	and
25	25	is	50	13	ask

事項の助動詞に以下の記述がある。

助動詞の代表的なものは，can, may, must, will などである。これらは，話し手の心的態度を表す重要な表現であり，丁寧な依頼などに不可欠である。

中学校では慣用表現以外では過去形を指導しないが，高等学校では必要に応じて過去形も指導する。（下線筆者）

『高等学校学習指導要領解説』の記述にもあるように、助動詞は、コミュニケーションにおいて、「話し手の心的態度を表す重要な表現」とある。ここで注目したいのは、上記引用部の「中学校では慣用表現以外では過去形を指導しないが，高等学校では必要に応じて過去形も指導する」である。**Express yourself** notesでは、助動詞の過去形would (33件)とcould (25件)の頻度が上位25位に入っている (would 33件とwouldの短縮形 'd 26件を合計すると59件となり、Table 3において、would ('d含む)は、厳密には第8位となる)。

これら2つの助動詞が、**Express yourself** notesのどのような働きを果たすために使用されているか、そして、これら2つの助動詞の例文中の意味を分析してみよう。

3.2.1 Would ('d含む)とcouldは、**Express yourself** notesの中で、どのような機能を果たすためによく使用されているかについて見てみよう。Table 4とTable 5は、それぞれ上位10のものをまとめてある。

Table 4: **Express yourself** notesにおける言語表現中のwould/'dの使用

Rank	**Express yourself** notesタイトル	Frequency
1	Offering somebody something	7
2	Asking for permission/a favour	6
3	Inviting somebody to something	4
3	Expressing a preference	4
3	Asking for and making a recommendation	4
3	Asking for somebody's opinion and involving others in a conversation	4
7	Giving somebody advice	3
7	Offering to do something	3

7	Disagreeing	3
10	Asking for clarification	2

Table 5: **Express yourself** notesにおける言語表現中のcouldの使用

Rank	**Express yourself** notesタイトル	Frequency
1	Asking for permission/a favour	4
2	Asking for help	3
2	Interrupting	3
2	Leaving a phone message	3
5	Giving somebody advice	1
5	Asking for clarification	1
5	Forbidding somebody to do something	1
5	Asking for information	1
5	Offering somebody something	1
5	Conversation openers	1

Express yourself notesタイトルを見ると、wouldは、第1位は、Offering somebody somethingにおける7例、第2位がAsking for permission/a favourにおける6例、couldは、第1位がAsking for permission/a favourにおける4例、そして、第2位は、Asking for help、Interrupting、Leaving a phone messageにおけるそれぞれ3例である。

Tables 4-5から、would、couldは、申し出、依頼、勧誘、意思伝達、提案、反対、妨害、禁止などの場合に用いられていることが分かる。

3.2.2 次にwouldとcouldの**Express yourself** notes言語表現例の中の用法を見てみよう。助動詞の意味に関しては、文脈により、解釈があいまいな場合や、複数の意味に解釈が可能であることはよく知られているが、**Express yourself** notesのタイトル及び、例文からつかむことのできる文脈から意味分析を試みた。意味はQuirk et al. (1985)、Biber et al. (1999)を参考にし、意味を表す日本語は『ジーニアス英和辞典　第5版』を参考にした。

Table 6: **Express yourself** notesにおける言語表現中のwould/'dの意味

	Meanings	Frequency
1	控え目な希望・考え	28
2	丁寧な依頼・勧誘	15
3	可能性・推量	9
4	意思	7
	Total	59

Table 7: **Express yourself** notesにおける言語表現中のcouldの意味

	Meanings	Frequency
1	丁寧な依頼・提案・命令	12
2	許可（丁寧な表現）	10
3	可能性・推量	2
4	能力（丁寧な表現）	1
	Total	25

Tables 6-7は、頻度順に意味を並べてある。Wouldは、第1位「控え目な希望・考え」、第2位「丁寧な依頼・勧誘」、第3位「可能性・推量」である。第1位、第2位の「控え目な希望・考え」、「丁寧な依頼・勧誘」には、would/'d like/love to、would/'d like、would you mind if . . . ?、would you like to . . . ?、would you like . . . ?などの表現が含まれる。Couldは、第1位「丁寧な依頼・提案・命令」、第2位「許可（丁寧な表現）」、第3位「可能性・推量」である。第1位、第2位の「丁寧な依頼・提案・命令」、「許可（丁寧な表現）」には、could you . . . ?、I wonder if you could . . . 、could I . . . ?などの表現が使用されている。どちらの助動詞の場合も、第1位、第2位には、慣用的な表現が含まれているため、学習者にもなじみのあるものが多いだろう。しかしながら、wouldとcouldのいずれも第3位の「可能性・推量」の意味に関しては、日本人英語学習者の使用はどのようであろうか。第3位の「可能性・推量」の意味は、第1位、第2位の意味の頻度と比較すると、wouldは9例、couldは2例のように、頻度は高いとは言えないが、これらの助動詞の過去形を、現在あるいは未来の「可能性・推量」の意味で用いることは、話し手、書き手の心的態度や確信度を表すのに重要であろう。「可能性・推量」の意味をもつwouldとcouldの用例をいくつか挙げてみよう。

a) ***That would be very nice, thank you.*** (a response) [Inviting somebody to something]

b) ***Would it help if I*** *spoke to Julie before you call her?* [Offering to do something]

c) ***What do you think would be best?*** [Asking for and making a recommendation]

d) *They* ***might/may/could*** *be related.* (*BrE* or *formal, NAmE*) [Speculating]

『高等学校学習指導要領解説』（英語に関する各科目に共通する内容等 2）の文法事項の助動詞について、「中学校では慣用表現以外では過去形を指導しないが, 高等学校では必要に応じて過去形も指導する」とある。**Express yourself** notesの中でも「可能性・推量」の意味をもつ助動詞の過去形が、言語表現の中で使用されていることから、学習者のレベルに配慮しつつも、高校生、大学生に指導をすることにより、学習者はより効果的な言語表現ができると考える。

4 本稿では、*OALD*9で新たに設けられた**Express yourself** notesの内容と言語表現について、『高等学校学習指導』の「言語の使用場面」、「言語の働き」、「言語材料」などの記述に照らしながら分析をした。『高等学校学習指導要領解説』（英語に関する各科目に共通する内容等 1）の「言語の働きの例」の解説には、「適切な表現を選択し」とあるが、具体的な表現は提示されていないことから、**Express yourself** notesで例示された言語表現を活用することも一つの方法であろう。さらに、本稿では、『高等学校学習指導要領』（英語に関する各科目に共通する内容等 2）に記された言語材料の文法事項の中から、助動詞の過去形にフォーカスを絞り、実際のコミュニケーションの中で、心的態度や、確信度を表すことが求められるため、高等学校及び大学の英語教育において、学習者のレベルも踏まえながら、助動詞の過去形の指導の必要性について提示した。話し手、書き手の心的態度や確信度は、助動詞のみならず、副詞、動詞、時制などによっても表すことができるため、これらも含めたさらに幅広い研究は今後の課題としたい。[7]

[7] **Express yourself** notesのExpressing certainty or uncertainty、Expressing likelihood、Speculatingは、本稿では、『高等学校学習指導要領』の「言語の働きの例」のうち、「推論する」に対応させた（Table 1参照）。これら3つの**Express yourself** notesの中の言語表現には、助動詞、副詞、動詞など、ある

今後、語用論や比較文化論などの分野からの知見の導入もますます必要であろう。

Appendix A:『中学校学習指導要領』「言語の使用場面の例」と「言語の働きの例」

［言語の使用場面の例］

a 特有の表現がよく使われる場面

・あいさつ　・自己紹介　・電話での応答
・買物　・道案内　・旅行
・食事　など

b 生徒の身近な暮らしにかかわる場面

・家庭での生活　・学校での学習や活動・地域の行事　など

［言語の働きの例］

a コミュニケーションを円滑にする

・呼び掛ける　・相づちをうつ　・聞き直す
・繰り返す　など

b 気持ちを伝える

・礼を言う　・苦情を言う　・褒める
・謝る　など

c 情報を伝える

・説明する　・報告する　・発表する
・描写する　など

d 考えや意図を伝える

・申し出る　・約束する　・意見を言う
・賛成する　・反対する　・承諾する
・断る　など

e 相手の行動を促す

・質問する　・依頼する　・招待する　など

いはそれらが重ねて用いられた例が挙げられている。

「言語の働きの例」において、下線を付したものは、『中学校学習指導要領』にはあるが、『高等学校学習指導要領』にはないものである。ただし、『中学校学習指導要領』の「b 気持ちを伝える」の「礼を言う」は、『高等学校学習指導要領』の「感謝する」に、『中学校学習指導要領』の「e 相手の行動を促す」の「招待する」は、『高等学校学習指導要領』の「誘う」に関連すると考え、下線を付していない。

Acknowledgements

この論文は、科学研究費補助金の交付を受けて行った研究成果の一部である(JSPS KAKENHI Grant Number 25370654)。

References

Anthony, L. 2014. AntConc (Version 3.4.3) [Computer Software]. Tokyo, Japan: Waseda University. Available online at http://www.antlab.sci.waseda.ac.jp/

Bachman, L. 1990. *Fundamental Considerations in Language Testing*. Oxford: Oxford University Press.

Bachman, L. and Palmer, A. 1996. *Language Testing in Practice*. Oxford: Oxford University Press.

Biber, D. et al. 1999. *Longman Grammar of Spoken and Written English*. Harlow: Pearson Education Limited.

Byram, M. 1997. *Teaching and Assessing Intercultural Communicative Competence*. Clevedon: Multilingual Matters.

藤本和子．2007.「*Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English* 第6版と第7版の比較 ― Usage Notesについて」『英語英文学研究』第31巻2号, 97-111．創価大学英文学会.

村野井　仁　他．2012.『統合的英語科教育法』東京：成美堂.

Quirk, R. et al. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Harlow: Longman Group Limited.

『ジーニアス英和辞典　第5版』2014．東京：大修館書店.

Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English. 8th ed. 2010. Oxford: Oxford University Press. (*OALD*8)

Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English. 9th ed. 2015. Oxford: Oxford University Press. (*OALD*9)

『オックスフォード現代英英辞典　第9版』2015．オックスフォード大学出版局編．東京：旺文社.

Oxford 2016 ELT Catalogue. 2015. Oxford: Oxford University Press.

The Man Who Made Dictionaries. 2004. Oxford: Oxford University Press.

『中学校学習指導要領』2008．文部科学省．Available at http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/chu/__icsFiles/afieldfile/2010/12/16/121504.pdf (accessed 5 October 2015).

『中学校学習指導要領解説　外国語編』2008．文部科学省．Available at http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2011/01/05/1234912_010_1.pdf (accessed 5 October 2015).

『中学校学習指導要領英訳版（仮訳）』2010．文部科学省．Available at http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/eiyaku/1298356.htm (accessed 8 October 2015).

『高等学校学習指導要領』2009．文部科学省．Available at http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2011/03/30/1304427_002.pdf (accessed 5 October 2015).
『高等学校学習指導要領解説　外国語編　英語編』2009．文部科学省．Available at http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2010/01/29/1282000_9.pdf (accessed 5 October 2015).
『高等学校学習指導要領英訳版（仮訳）』2010．文部科学省．Available at http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/eiyaku/1298353.htm (accessed 8 October 2015).

Obunsha. 2015. Obunsha Co., Ltd. Available at http://www.obunsha.co.jp/ (accessed 5 October 2015).
Oxford Dictionaries. 2015. Oxford University Press. Available at http://www.oxforddictionaries.com/ (accessed 4 October 2015).
Oxford Learner's Dictionaries. 2015. Oxford University Press. Available at www.oxfordlearnersditionaries.com (accessed 5 October 2015).